

THE JAPAN SOCIETY FOR INTERCULTURAL STUDIES 第22号

2012年5月1日発行

日本国際文化学会

日本国際文化学会事務局

<http://www.jsics.org>

〒253-8550

ニューズレター

神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100

文教大学国際学部

山脇千賀子研究室

第11回全国大会のプログラムを発表いたします

2012年7月7日（土）、8日（日）の両日、日本国際文化学会2012年度第11回全国大会が、本年開館60周年を迎える公益財団法人国際文化会館の全面的なご協力を得て、国際文化会館（7日、東京都港区）と青山学院大学（8日、東京都渋谷区）において開催されます。

この間準備を順調に進めて参りましたが、共通論題に続いて自由論題発表も決定し、特別シンポジウム「災害と言葉、そして言葉と災害」のテーマやパネリストも後述のように決まりました。このシンポジウムは、昨年の名桜大学での「戦略としての文化と国際文化学—3/11後の展望」での議論を、本学会がどのように引き受け、発展させていくかを新たな角度から問うものです。また、フォーラムでは、これまでの全国大会や国際文化学関連学部・大学院による情報交換会での議論をさらに深め、「学会認定資格創設の必要性と課題—国際文化学の学士力の可視化に向けて」と題して、学会が認定に関与する「資格」について、学問的検討を試みます。会員の皆様方の多数の参加をお待ちしております。

第11回全国大会実行委員長 青山学院大学総合文化政策学部 岡 眞理子

【特別シンポジウム】「災害と言葉、そして言葉と災害」

3.11の震災は人命、社会生活、地域、財物を奪ったと同時に言葉と、それにもとづく人間の精神文化を破壊した。言葉と精神文化を復興させること。それが今の私たちの急務である。悲劇や不幸のなかから、未来へ向っての言葉を発信する。（モデレーター 川村 湊）

この公開シンポジウムは、本学会と、国際文化会館および東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センターとの共催で行われます。

【フォーラム】「学会認定資格創設の必要性と課題—国際文化学の学士力の可視化に向けて」

このフォーラムは、国際文化学系の学部・学科における「学士力」を可視化・具体化する試みとして、本学会が認定に関与する「資格」制度の創設について、広く討議に付そうとするものである。

学会認定資格の有力候補として「文化創成コーディネーター資格(仮称)」が提案されているところ、その実現に向けた方途や課題について、①国際文化学部・学科における学力可視化の必要性、②文化創成コーディネーター資格の構想、③学会認定資格創設をめぐる意義と課題、の三つの柱から、多角的に検討を加えてみたい。（司会 吉岡 剛彦）

☞今大会では、会場の関係から、大会参加者数の事前調査を行います。お手数ですが、6月15日までに、同封の大会参加可否連絡票にてご出欠をお知らせ下さい。大会参加費支払い専用振込用紙、会場案内も同封しております。参加費は、5月末日までに振り込まれると500円割引になります。

プログラム詳細は2～4ページ、参加費や登録等についての概要は6ページをご覧ください。

日本国際文化学会第11回全国大会プログラム（大会日程）

（2012年5月1日現在）

* 一日目と二日目で会場が異なります。ご注意ください。

* 参加申し込み等について詳しくは、本ニューズレター6ページをご覧ください。

7月7日（土）【会場：国際文化会館】

9:00～11:00 自由論題〔セッションA・B〕

●セッションA

司会：植野 雄司（プール学院大学国際文化学部准教授）

- 1) 澁谷 鎮明（中部大学国際関係学部教授）
・U. メーワルト（中部大学国際関係学部教授）
・杓谷 茂樹（中部大学国際関係学部教授）
「ふたつの高山—海外からの団体ツアー客・個人客の視点と観光行動」
- 2) 守屋 貴嗣（法政大学大学院国際文化研究科兼任講師）
「『満洲文学論争』の一試論」
- 3) 周 家彤（愛知淑徳大学大学院現代社会研究科 博士後期課程）
「長春市における『満州国』遺跡群をめぐる文化遺産政策評価」
- 4) 山田 和夫（愛知県立豊明高等学校教諭）
「ラフカディオ・ハーンの越境性と時代性」

●セッションB

司会：木原 誠（佐賀大学文化教育学部教授）

- 1) 鄭 榮蘭（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程）
「韓国の参与政府の文化政策と新たな日韓文化交流—韓国の放送産業における、放送プログラムの輸出入の状況を中心として—」
- 2) 山崎 麻里（青山学院大学大学院総合文化政策学研究科修了生）
「韓国現代演劇と日韓舞台芸術交流」
- 3) 張 そんひ（法政大学大学院国際文化研究科博士後期課程）
「童謡にみる〈夢・希望〉の日韓比較」

11:15～13:15 共通論題〔1・2・3・4〕

●共通論題1 「第一次世界大戦後の『国際協調思想』と『革新思想』の相克—1920年代を中心に—」

司会：クリストファー・W・スピルマン（九州産業大学教授）

報告者：

木下 宏一（保健医療経営大学非常勤講師）

「反国際協調主義としての右翼思想—1920年代の綾川武治の場合」

伊藤 信哉（松山大学法学部准教授）

「1920年代『外交時報』にみる日本の国際情勢認識」

澤田 次郎（拓殖大学政治経済学部教授）

「対英米協調から自主外交へ—徳富蘇峰の事例を中心に」

●共通論題2 「日本の国際関係における通訳翻訳コミュニケーションの文化性：異文化コミュニケーションの視点から」

司会：鳥飼 玖美子（立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科異文化コミュニケーション専攻特任教授）

報告者：

水野 真木子（金城学院大学文学部教授）

「コミュニティ通訳者の文化仲介者としての役割」

中村 幸子（愛知学院大学文学部准教授）

「法廷通訳者の訳語選択が心証形成に与える影響—異文化コミュニケーションの問題を中心に—」

坪井 睦子（立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科異文化コミュニケーション専攻特任准教授）

「国際報道における翻訳の不可視性と文化の介在」

齊藤 美野（津田塾大学英文学科非常勤講師）
「明治文学翻訳における文化受容」
河原 清志（金城学院大学文学部准教授）
「国際文化学から見た通訳翻訳行為の多層性」

●共通論題3 「日米交流史の再検討—非国家主体に注目して—」

司会：都丸 潤子（早稲田大学政治経済学術院教授）

報告者：

飯森 明子（常磐大学国際学部非常勤講師）

「戦前における日米協会の活動」

牧田 東一（桜美林大学基盤教育院教授）

「冷戦とアメリカのsocial power：1950年代のフォード財団の日本での活動」

毛受 敏浩（日本国際交流センター業務執行理事兼チーフプログラムオフィサー）

「戦後における日米姉妹都市交流の展開」

討論者：

五十嵐 武士（桜美林大学大学院国際学研究科教授）

●共通論題4 「現在に生きる能楽—内と外の視点による事例と検討—」

司会：鈴木 裕輔（法政大学国際日本学研究所客員学術研究員）

報告者：

ティタニラ・マートライ（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館研究員）

「劇的な空間を映画的な空間へ——新藤兼人

『鬼婆』と『藪の中の黒猫』をめぐって」

マガリ・ブーニュ（ストラスブール大学大学院文学研究科博士候補生）

「もう一つの羽衣伝説：パリでの初めての能の上演とその創造の過程」

カトリーナ・ムーア（ニューサウスウェールズ大学社会科学院准教授）

「愛好家はいかに能を舞うか——日常生活、稽古、女性を手掛かりに」

鈴木 裕輔（法政大学国際日本学研究所客員学術研究員）

「学校教育における『日本の伝統芸能の教育』の実際——公立高等学校における事例を中心に」

13:15～15:00 常任理事会と理事会の共同開催、昼食

15:00～17:30 特別シンポジウム

「災害と言葉、そして言葉と災害」

モデレーター：川村 湊（文芸評論家、法政大学国際文化学部教授）

パネリスト：

東 浩紀（早稲田大学文学学術院教授、『思想地図B』編集長）

平野 啓一郎（作家）

星加 良司（東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター専任講師）

コーディネーター：白石 さや（東京大学大学院教育学研究科教授）

18:00～20:00 情報交換会（会場：国際文化会館地価会議室 樺山・松本ルーム）

7月8日（日）

【会場：青山学院大学総研ビル】

9:00～11:00 自由論題セッションC・D

●セッションC

司会：川村 陶子（成蹊大学文学部准教授）

1) 上品 和馬（早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師）

「近代日本の対外広報：新渡戸稲造と鶴見祐輔の活動を中心として」

2) 越智 淳子（早稲田大学アジア研究機構、アジア北米研究所、日韓グローバル研究所客員研究員）

「日本文明・文化論：国内と米欧における時代的諸相—相互浸透と乖離—と『近代』との関係」

3) 川村 明海（龍谷大学大学院国際文化学研究科）

「中世ロシアにおける『二重信仰』と建築との関連性」

●セッションD

司会：都丸 潤子（早稲田大学政治経済学術院教授）

1) シュミット・クラウディア（桃山学院大学文学研究科比較文化専攻博士後期課程）

「21世紀における茶—その表現と意義—」

2) 横川 潤（文教大学国際学部国際観光学科准教授）・都筑 馨介（文教大学健康栄養学部管理栄養学科教授）・笠岡 誠一（文教大学健康栄養学部管理栄養学科准教授）

「食文化へのインターディシプリナリー・アプローチ」

3) 太 承吉（中部大学大学院国際人間学研究科国際関係学専攻博士後期課程）

「日本に來住する中国朝鮮族の進路選択：東アジアにおける朝鮮族の移動、移住の展開」

4) 玉腰 辰己（笹川平和財団研究員）・孫 雪梅（南開大学日本語学科講師）

「日中国交回復後40年の映画交流」

11:15～13:15 共通論題〔5・6・7〕

●共通論題5「アジア太平洋地域の国際関係：太平洋問題調査会（IPR）とその群像」

司会：片桐 庸夫（群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部）

報告者：

山内 晴子（玉川聖学院）

「埴原正直と朝河貫一の外交政策の比較」

福井 七子（関西大学外国語教育研究機構）

「ヘレン・ミアーズの日本論」

山岡 道男（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科）

「日本におけるマッカーシズム研究とマッカーシズム期に関するIPR研究」

●共通論題6「地域社会と環境保全—南方熊楠の神社合祀反対運動再考」

コーディネーター：松居 竜五（龍谷大学国際文化学部准教授）

パネリスト：

櫻井 想（龍谷大学大学院国際文化学研究科博士課程）

畦上 直樹（上越教育大学大学院学校教育研究科准教授）

田村 義也（南方熊楠顕彰館理事）

●共通論題7「文学で見る日本モンゴルの文化交流」

司会：富川力道（日本ウェルネススポーツ大学スポーツプロモーション学部准教授）

報告者：

岡田 和行（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）

「日本におけるモンゴル文学研究」

富川 力道（日本ウェルネススポーツ大学スポーツプロモーション学部准教授）

「日本モンゴル俳句の翻訳と問題点」

芝山 豊（清泉女学院大学人間学部教授）

「モンゴル語世界の司馬遼太郎と村上春樹」

13:15～14:00 総会、昼食

14:00～16:00 フォーラム

「学会認定資格創設の必要性和課題—国際文化の学士力の可視化に向けて」

司会：

吉岡 剛彦（佐賀大学文化教育学部准教授）

パネリスト：

木原 誠（佐賀大学文化教育学部教授）：詩学（poetics）／文学の立場からみた文化創成の意義

杉浦 勢之（青山学院大学総合文化政策学部教授）：文化創造を念頭に置いた教育とその課題ほか一名を予定

討論者：

松居 竜五（龍谷大学国際文化学部准教授）

平野健一郎賞第4回選考 推薦のお願い

日本国際文化学会平野健一郎賞（旧・研究奨励賞）の第4回選考を行います。自薦／他薦による推薦をお送りください。規定による選考を行い、第4回の受賞者を2012年7月8日総会で表彰します。規定の関係箇所から一部抜粋します。

（目的）：この賞は、日本国際文化学会が国際文化学の発展に資する研究を奨励し、若手研究者の功績を評価顕彰することを目的とする。

（授与資格）：本学会に所属する若手研究者。「若手」の定義はおおむね45歳以下とするが、論文の内容、執筆者の経歴なども考慮して決定する。

（授与対象）：1）直近に刊行された学会誌『インターカルチュラル』に掲載された研究論文。

2）会員の自薦または他薦により、推薦のあった研究論文。大学紀要などに掲載された研究論文に限る。研究論文を推薦しようとする者は、研究論文の写し6部、執筆者の氏名・肩書き・年齢、論文掲載紀要などの書誌項目、査読の有無、推薦者の氏名・肩書き・推薦論文執筆者との関係、2000字以内の推薦理由書等の必要事項を添えて、学会事務局に提出する。締め切りは4月30日必着とする。

（授与件数）：1年に1度1件を原則とする。

宛先：〒253-8550 神奈川県茅ヶ崎市行谷1100

文教大学国際学部山脇研究室 日本国際文化学会事務局

Eメール：jsics2011@gmail.com

●上記のとおり推薦の締め切りは4月30日になっていましたが、引き続き推薦を受け付けます。5月10日消印有効でお願いします。会員諸氏の積極的なご協力をお願いします。

++++ 国際文化会館（特別シンポジウム共催主体、7月7日会場）からのお知らせ +++++
公益財団法人国際文化会館では、次世代を担う若手リーダーを育成する「新渡戸国際塾」第五期生を募集中です。募集締切が5月8日（火）と迫っておりますが、ご関心をお持ちくださりそうな20代、30代の方々へご案内いただければ幸いです。

詳しくは同封の募集要項、または以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.i-house.or.jp/jp/ProgramActivities/nitobejuku/index.htm>

（お問い合わせ：国際文化会館企画部03-3470-3211、担当：笹沼）

+++++

●●●●● 第11回全国大会概要、参加・申し込み要領 ●●●●●

《日時と会場》

(第一日) 2012年7月7日(土) 9時～20時(情報交換会終了)

会場：国際文化会館 〒106-0032 東京都港区六本木5-11-16 (電話 03-3470-4611)

(第二日) 2012年7月8日(日) 9時～16時(全日程終了)

会場：青山学院大学総研ビル 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

(電話 03-3409-6304 総合文化政策学部合同研究室：前日まで)

各会場へのアクセスについては、同封の会場案内をご参照下さい。

今回大会では、学会から宿泊のご案内は行っておりません。宿泊の必要な方は、恐縮ですが、旅行会社等を通じて各自ご手配下さい。なお、国際文化会館でも宿泊設備を提供しています。詳しくは当学会参加者であることをお申し添えの上、同会館に直接お問い合わせ下さい。

《参加費と事前登録》

参加費(一般会員事前登録) 2000円(事前参加登録の上で5月末日までに振り込みの場合)

参加費(当日支払いの場合) 一般会員 2500円

一般非会員 3000円

院生・学生 1000円

情報交換会 一般5000円 院生・学生2000円

お弁当代(お茶つき) 7月7日1000円 7月8日1000円

上記費用は、同封の専用振込用紙にてお振り込み下さい。一般会員が事前に参加登録された上で5月末日までに振り込まれる場合、大学補助金の関係で事前登録割引が適用され、参加費が2000円となります。それ以降のお振り込みや、当日会場で支払われる場合、参加費は2500円となります。なお、国際文化会館の会員は、7日の特別シンポジウムに無料で参加できます。

上記大学補助金との関係、および準備の都合上から、大会参加者数の事前調査を行っています。大会に参加される方は、6月15日までに、同封の参加可否連絡票に記載された要領で事前登録をお願いします。参加されない方も、大変お手数ですが、同様の要領でご欠席の旨お知らせ下さい。

■第11回全国大会実行委員会事務局

青山学院大学総合文化政策学部 岡 真理子 研究室

(〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25、FAX 03-3409-8213)

電子メール jsics2012@yahoo.co.jp (プログラム担当：成蹊大学文学部 川村 陶子)

***** 理事選挙投票のお願い *****

ニューズレター21号で公示したとおり、理事選挙を郵送で行います。

別便で会員の皆様に選挙人名簿・投票用紙・返信用封筒を送りますので、投票を期日内に(5月31日消印有効)お済ませいただけますようお願いいたします。

***** 2012年度会費納入のお願い *****

2012年度会費納入をお願いいたします。同封の振込用紙(年会費用)を用いて所定の金額を納入してください。第11回大会参加費振込用紙とは振り込み先が違いますので、ご注意ください。

一般会員 10,000円/大学院生 5,000円/学部生 2,000円

(編集後記) 今回も多くの方々のご協力により、ニューズレターを発行することができました。心より感謝申し上げます。大会プログラムも、各方面のお知恵やお力のおかげで、大変充実したものとなりそうです。多くの皆様のご登録とご参加をお待ちしております。(Y.K.)